

令和4年度 学校評価表 (全日制課程)

県立赤穂高等学校 (全日制)

<p><令和4年度の重点目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学力向上と個性や創造の伸長 2 豊かな人間性と社会性の育成 3 地域に信頼される学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した学校運営がなされている。 ・重点目標について、うまくかみ合っており目標が達成している。 ・課題を明確にし対策を講じて、より一層の充実を願う。 ・学力の向上を図り、進学者数(特に、国公立大学)を増やして欲しい。 ・学習をはじめ、生徒一人一人の指導に力を入れている(人間性・社会性)。保護者として感謝している。 ・今後、学校行事について、保護者だけでなく地域の人にも開放する等の検討をして欲しい。
---	--

領域	評価の観点	評価項目、並びに、実践目標	R4 成果と課題	R4 肯定比率(%)	R3 肯定比率(%)	保護者の肯定率(%)	R4 改善の方策	R3 学校関係者評価
学校運営	地域に信頼される学校づくり	魅力ある、地域に信頼される開かれた学校づくりの推進 ①学校行事や生徒情報を家庭や地域社会に月に1回以上発信。 ②HPの更新と内容の充実。 ③生徒会活動、HRや部活動等の教育活動を通して、自発的な態度の育成。 ④地域行事の積極的参加と地域の核となる人材の育成。	・ホームページ更新や「赤高だより」の発行等、定期的に情報を発信した。新たに、教育活動の報告について、HPに掲載したり、新聞やテレビ局等のマスメディアへ連絡を行い、取材をしていただいたりした。 ・学校行事については、感染対策を取りながらすべて実施できたが、文化祭は、雨のため全校生が内庭に集まりオープニングセレモニーを行う予定がリモート開催となった。体育大会は、3年生の保護者のみの案内であったが、3年ぶりに有観客での実施となった。始業式、終業式はすべて放送で行った。 ・赤徳義士祭は、小中学校が不参加となり、恒例の義士行列や奉賛武道大会への参加に加え、「大名行列」に本校生28名の有志が出演。また、吹奏楽部がオープニングセレモニーで演奏した。	94.7	82.1	83.2	・ブログの更新の種類等を増やす。 ・生徒指導部との連携を深め、部活動の活動記録を定期的に発信する。 ・ボランティア活動を積極的に推進し、一層地域との連携を深める。	・成果と課題について課題を明確にし他者を記入することが必要、かつ大切である。 ・地域に信頼されるために活動内容について、広報されていて分かり良かったと思う。 ・卒業生などから本校の活動についてモニタリングされた方が良いので、検討して欲しい。 ・雅楽部等、他校にないクラブもあり、良いと思う。 ・義士祭参加等の地域との連携を今後もすすめて欲しい。
	生徒指導	生徒指導の方針と指導体制の推進 ①登校指導において遅刻防止と挨拶励行。 ②部の基本方針の下、日常生活指導等、全職員で統一した指導の徹底。 ③関係機関(警察、青少年育成センター等)との連携と、問題行動の未然防止と早期対応。 ④校内の教育相談体制の整備。	・時差登校の実施により校門の混雑が緩和され、駆け込み登校する生徒もほとんどなく落ち着いた雰囲気です。1限が開始できた。挨拶も自発的におこなう生徒が多い。 ・他校の服装規定見直しや中学校の制服変更などの影響もあり、生徒指導部では内規を、生徒会では生徒心得を、それぞれが見直しに向けた準備をすすめている。 ・交通事故に遭遇したら軽微なものであっても警察へ届け出を呼びかけたが、届け出を怠り、事後になってトラブルになるケースがいくつかあった。	94.9	92.3	82.5	・学年時差登校は保護者の理解と協力のもと継続して実施していった。 ・生徒指導部を基軸に共通理解と周知、丁寧な説明を教職員や生徒・保護者に対しておこなっていく。 ・さまざまな行事を通じて生徒と生徒、生徒と教職員の相互理解を深め、自信と信頼を醸成し、生き生きとした学校生活を送れるように努める。 ・部活動の意義や文武両道の大切さを伝え、加入率や継続率があがるような取り組みをおこなう。 ・生徒指導部、保健教育相談部の連携を十分に行う。	・交通事故の警察への届出の怠りへの対策を「改善の方策」に記入をして欲しい。 ・校則の見直しについて、現在もされていると聞いている。今後も生徒会と連携してすすめて欲しい。 ・PTA役員として、交通安全の通学路の立番をしていても、挨拶してくれる生徒が多く、大変気持ちの良いものだった。
	進路指導 キャリア教育	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上 ①進路意識やキャリア意識の向上(講演会、座談会、体験学習の内容の充実と進路通信、各種情報誌、キャリアノートを利用・活用)。 ②家庭学習の定着と自己管理能力の向上(「未来手帳(生徒手帳)」の活用方法の研究)。	・5月に3年生対象の進路別講演会および2・3年生対象の進路ガイダンス、10月に1・2年生対象の進路講演会および1年生対象の「生き方を考える」座談会、11月に2年生対象の大学出張講座を実施した。いずれも各学年に対応した内容で構成され、生徒の進路意識の高揚と適切な進路情報の収集に役立つ内容であったと思われる。各講座の事前指導および事後指導をより充実させ学力の向上と進路意識の高揚に今まで以上に繋がる内容にしていきたい。	82.1	69.2	84.2	・講演会・座談会等と普段の指導との関連を深めて生徒にとってより向上を図れる内容構成となるように研究する。 ・「未来手帳(生徒手帳)」の活用が学習習慣や生活習慣の定着に結びつくように、また生徒が自発的に手帳を活用する習慣を持てるような指導方法を研究する。	・進路意識の向上を目的とした講演会・座談会等は非常に良い。 ・「未来手帳」の活用についての成果を期待したい。 ・生徒たちが、より興味のわく講演会等の実施を継続して欲しい。
	教職員の資質向上	指導力の向上 ①各部・委員会の研修会の実施(年間1回以上)。 ②授業力の向上(公開授業等の研修)。 ③研究授業の実施(全教科)。	・全職員対象として人権教育委員会より「人権教育の職員研修」、保健相談部より「カウンセリングマインド研修会」の実施があった。 部、委員会の中では小さな研修会は実施されている。 ・公開授業週間は、6月と11月の2週間ずつ年に2回実施している。6月は教育実習生も含めての授業見学、11月は、「赤穂市中高教科研究会」兼「学力向上推進事業」での英語科の研究授業を中心に各教科の研究授業も実施された。 ・多忙中ではあるが、教科横断の内容も含め自他の授業力の向上に取り組んでいる。	69.2	76.9	83.2	・各部署で出張に出向いた内容をまとめて研修内容とし、各部、各員会、全職員対象として研修を行う。 ・可能であれば、公開授業週間にとどまらず、お互いの授業見学を実施する。 ・研究授業は、年2回にとどまらず、教科横断的な内容も含めて専門教科以外の先生方にも見ていただいて意見をもらうようにする。	・授業が落ち着いた中で行われていることに感心している。 ・指導力向上に向けた活動に感謝する。
	防災・危機管理体制の整備	教員の防災・安全教育に係る指導力向上と、地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進 ①危機管理マニュアルの適宜改定(行政や地域との連携) ②防災避難訓練(地震・津波・火災の想定)について、行政、地域、関係機関との情報交換と連携体制の構築。 ③交通安全に関し、社会の一員として自覚ある行動と事故防止。	・消防署との連携を密にし、避難訓練の時期、内容を随時検討する。 ・赤穂防災士の会など地域や行政と連携し、自分の身を守りかつ地域で共助の力を発揮できる力について、卒業までの3年間で一通り体験できるよう、防災意識向上に繋がるワークショップなどを開催を継続する。 ・新型コロナ感染症等、さまざまな状況が増加するを鑑み、従来の想定以外の状況であっても柔軟に対応できるよう避難訓練等の防災教育の充実を模索する。 ・少子化や気候変動等、地域の実態に即した危機管理マニュアルの見直しと避難訓練の充実を図る。	71.8	74.4	-	・消防署との連携を密にし、避難訓練の時期、内容を随時検討する。 ・赤穂防災士の会など地域や行政と連携し、自分の身を守りかつ地域で共助の力を発揮できる力について、卒業までの3年間で一通り体験できるよう、防災意識向上に繋がるワークショップなどを開催を継続する。 ・新型コロナ感染症等、さまざまな状況が増加するを鑑み、従来の想定以外の状況であっても柔軟に対応できるよう避難訓練等の防災教育の充実を模索する。 ・少子化や気候変動等、地域の実態に即した危機管理マニュアルの見直しと避難訓練の充実を図る。	・防災意識の向上に向けた取り組みには感謝している。今後も継続した指導をお願いしたい。 ・赤穂防災士の解との外部連携は良いことである。さらに発展させて欲しい。
いじめ防止 早期発見 早期対応	いじめのない学校づくり ①いじめアンケートを実施(学期に1回)、早期発見・早期解決の体制づくり。 ②教育相談等に関して、全職員の連携と生徒の内面的理解。それに基づく生徒指導の推進。 ③校内組織体制(いじめ対応チーム)の構築。	・学期に1回、いじめアンケートを実施し、早期発見早期対応、未然防止に努めた。 ・日々の生徒観察をもとに様々な立場での声かけを実践するとともに、その指導の情報共有に取り組んだ。また、聞き取りを基本に家庭との連携を密にする取り組みも実践できた。 ・支援の必要な生徒も複数在籍しており、学年や保健相談部との連携を密にし、未然防止に取り組む必要がある。	97.4	97.4	-	・日々の生徒観察、個人面談、いじめアンケートを継続して実施し、早期発見早期対応、未然防止に努める。 ・保護者懇談会等を通じて、いじめに対する基本方針の理解を呼びかけ、学校と家庭が協力して生徒をサポートできるようにする。 ・学年や保健相談部との連携を密にし、支援の必要な生徒情報を共有し、未然防止に努める。 ・職員研修会等を通じて、いじめに対する教職員のスキルアップに努める。	・「いじる」という言葉をよく聞く。「いじられている」者からすれば、「いじめ」られているかと思っている者もいるかもしれないので、よく注意して対応をして欲しい。	

教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	探究活動の実践と特色類型の充実 ①全教科において、主体的、対話的で深い学びの手法を取り入れ、体験的な学習または問題解決的な学習についての授業展開。 ②学力向上を目的とした指導の推進（「未来手帳」の活用）。 ③総合科学探究類型について、体験活動の充実とその発展。	・各教科、主体的に対話的な内容となるように、生徒の発言や発表の機会を増やすなど様々な工夫をしながら取り組んでいる。 ・生徒手帳の活用は、上級生になるにつれ丁寧に書き込む生徒が見受けられる。自己の向上につながる振り返りや計画の書き込みを、さらにGoogleClassroomも含めてさらに主体的に取り組めるように促したい。 ・総合科学探究類型生の活動体験は、昨年より、サイエンス寺子屋、県立大学への訪問・研修、スプリング8の見学・研修、赤穂化成、ジオマテックの工場見学研修、科学教室in赤高と昨年度の2つと比べると4つ増え充実したものとなった。	69.2	71.8	—	・教育クラウドを利用し、振り返りを身近にし、生徒との意見交換、教師間の意見交換、他校の取り組み実践を参考にしながら、学習展開をつくっていく。 ・生徒手帳でできることと教育クラウドでできることを教師間で明確にし、活用する。 ・来年度も大学と企業の新しい情報を取り入れ、類型生の知見と体験がより充実した内容になるよう取り組む。	・総合科学探究類型のカリキュラムの充実を図って欲しい。 ・赤高へ行ったら、他校では無いことが学べることをアピールして欲しい。 ・実際に自分たちでの目で見、触って体験することは、非常に重要である。引き続き体験を中心とした活動を行って欲しい。
	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間の実践 ①探究活動を通して、在り方・生き方を踏まえ、課題発見、解決する資質・能力の育成。 ②総合探究類型について3年間を見据えた企画の立案と実施、また、その改善の推進。	・探究活動においては、1学年の探究内容を赤穂市に関するものとして取り組んでいる。赤穂市から企画政策課 建部 有宏の赤穂市の現状と課題についての講演をしていただき、小人数のグループ編成をして課題を考え設定し、校外調査も含めて発表まで計画をしている。 ・2学年は、自身の進路を考えながら、実生活と自己との関わりの中で、自ら問いを発見し、課題を立て、情報を整理・分析して表現する力を養うことを目標とした探究、3学年は自ら課題を発見し、自身の進路実現を目指す態度を養うことを目標とした探究を実施。 ・3年間を見据えた企画・立案は現在作成中である。	71.8	74.4	—	・常に探究の原点に立ち返り、教師間で改善をしていく姿勢をもった話し合いの場を持ち取り組む。 ・生徒の意見も取り入れながら、よりよい探究としていく。 ・赤穂市にある企業と市の施設等を活用させていただき、より探究類型の生徒の成長につながる内容とする。	・普通科の「総合的な探究の授業」にも総合科学探究類型のような探究や学習を展開して欲しい。例えば、社会科学や人文科学を学びたい生徒もいると思うから。赤高は、赤穂唯一の高校です。今後も行政、木御油との連携の継続をお願いしたい。
	個に応じた学習指導の徹底	学力の把握と指導の方法や形態の工夫 ①ひょうご学力向上研究事業を活かし、各教科について、生徒に応じた指導方法等の実践。 ②習熟度別のクラス編成や授業を行い、教育効果を高める。 ③スタディーサポート、模試、入試結果について、適切な分析と進路指導方法の改善。	・授業の振り返りは、各教科取り組んでいる。授業振り返りシートの活用をタブレット等を使い、より早くフィードバックができ、より生徒の実態に応じた授業に反映できるよう工夫していきたい。 ・数学・外国語を中心に、習熟度に応じた編成を取り入れた授業が展開されている。選択科目では少人数で、生徒の学習状況を踏まえた丁寧な指導につながっている。 ・定期考査前の勉強会を設定したり、週末の課題等を通して学習する習慣をつけさせた。また、早朝補習を実施して基本的な内容から応用まで幅広く学習をさせることができた。	74.4	76.9	87.1	・教育系クラウドを用いて振り返りができるよう促進する。 ・クラス減職員減に伴う、教育課程及び選択科目の編成等の検討が必要である。 ・生徒の実態に応じた授業内容の展開の実施を図る。 ・模擬試験の結果だけでなく、その対策に向けた計画を作り指導を実施する。	・個々に応じた指導をより一層充実させて欲しい。 ・タブレット導入をはじめ、クラウド等今までにない学習様式が変化している。新しい学習方法の研究を深めて欲しい。
課題教育	健康・安全教育	生徒の実態に即した学校保健の立案と実施 ①定期健康診断の事後措置を行うことで、早期受診促進と、疾病予防。	・生徒保健委員会を定期的の実施し、車椅子と担架の使用方法和教室の換気を行うことを徹底した。 ・定期検診後の受診が必要な生徒について、事後措置を促したが全員が受診できていない。 ・コロナウイルス感染症対策について、教室の換気、必要に応じた消毒、手洗いの励行など行っているが、食堂での昼食時に黙食、生徒同士のソーシャルディスタンスなど課題が残っている。	94.9	94.9	87.8	・生徒が安全で健康な学校生活が送れるよう他部署と連携して職員の研修を充実させる。 ・検診後の事後措置により受診を促す。 ・引き続き、コロナワクチン感染予防対策の徹底を図る。 ・保健委員会の活動を活発にし、生徒達の安全意識を高める。	・コロナ感染防止対策をとりながらの指導、大変だったと思う。感謝をしている。
	人権教育	人権についての意識の向上と基本的な理解 ①学校の教育活動の中で、他人を思いやる気持ちの育成 ②命を守る等の人権意識を高揚といじめのない学校づくりの推進。 ③人権教育講演会やLHRを通し、豊かな人間性や社会性の育成。	・今年度は、竹内義博氏を招き、「インターネットによる人権侵害の現状と対策」について、人権講演会（1・2年生対象）を開催し、人権訪問指導では、1年では『SHSを正しく使用していますか？』2年では『コミュニケーションの取り方を見直そう』の単元で、人権HRを実施した。3年では、人権映画『カレーライスを一から作る』を鑑賞し、『生きるとは！』で人権HR、履歴書問題について、学んだ。また、職員研修会では、弁護士協会より、上垣孝俊氏を招き、「よりよい職場環境づくり」を弁護士の立場より講演をいただき、研修を深めた。	89.7	84.6	88.7	・新たな人権課題について、職員研修会を開き、職員の人権意識を広め、課題に取り組んでいきたい。 ・赤穂市での市民促進研究会での研究会でも小学校・中学校・地域とも取り組みを広げ、研究を深めていきたい。	・人権、ジェンダー等の色々な問題があるが、これからの時代に必要な事柄であるため、生徒への指導をお願いしたい。
	情報教育	情報モラルの育成と情報機器の適切な利用の推進 ①情報モラル（個人情報、知的財産、情報セキュリティ等）の知識理解。 ②情報について、正しく発信する等の処理能力の育成。 ③生徒会を中心にルール策定と情報マナーの向上。	・BYODの考え方に従って77回生からiPadを導入した。生徒会で検討し設定した「赤校BYOD心得」にしたがって、大きなトラブルもなく活用できた。 ・各教科において授業にタブレット端末、iPadを活用した授業を展開しているが、校内ネットワーク環境が使用情報量の増加に追いつかず苦勞している。 ・GoogleClassroom等クラウドの利用を進めているが、学校全体の活用には至っていない。 ・情報モラルについてLHRや情報モラル講演会を実施しネット社会において「被害者にも、加害者にもならない」よう理解を深めさせているが、SNS等への不用意な書き込みや自己の情報管理が不十分な事案が見受けられ、更なる情報モラルに関する教育をすすめていく必要がある。	82.1	74.4	—	・BYODの導入によって、各教科で活用した成果を共有し、より有効な活用方法をすすめる。 ・BYOD導入に向けて作成した「赤高BYOD心得」をもとに、生徒の自主性のもと校内での利用マナーを指導し、対応してきたが大きなトラブルもなかった。より有効に、かつトラブルに巻き込まれない利用方法を探っていく。 ・ネットワーク環境が整わない中での活用だったが、教育委員会の支援のもとネットワーク環境や指導用機器の拡充をすすめていく。	・校内ネットワーク環境を整えることは大事である。ぜひ高速LANを早急に導入しスムーズに動く環境を実現して欲しい。生徒の意欲が高まると考えられる。 ・教育の世界もますます、アナログからデジタル化にシフトしていく時代である。先生方のご苦勞もあると思いますが、システム化するなど頑張ってください。 ・いじめやSNSトラブルはなくなりません。使用について、方法や時間等。家庭でのルール作りをはじめ、引き続き学校からの発信もお願いしたい。
体験活動	ボランティア活動や福祉体験の推進 ①赤穂特別支援学校との積極的な共同学習の推進。 ②校内外のボランティア活動、保育施設でのふれあい育児体験、地域行事の補助、高齢者福祉施設での交流等の活動の推進と、自己有用感の育成。	・赤穂特別支援学校との各種の交流事業を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のためすべて中止となった。 ・駅周辺や通学路の清掃活動については、感染症予防に対し十分な対策を講じ、生徒会と有志を中心に実施した。 ・赤穂シティマラソンや義士祭等、市のイベントに多数の生徒がボランティアとして参加した。 家庭科（ふれあい育児体験の参加者は、少なかったが今年度実施することができた。育児体験することで、進路意識が高まった。高齢者施設の訪問は今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため実施することができなかった。）	82.1	87.2	86.9	・活動前後の広報を工夫することにより周知し、ボランティアに関わる職員・生徒を増やす。 ・地域課題を探究的に解決する学習の重要性を認識し、授業に取り入れる工夫などの研究を進める。 ・赤穂市からのボランティアの要請には、可能な限り協力する。 ・活動前後の広報を工夫することにより周知し、ボランティアに関わる職員・生徒を増やす。 ・地域課題を探究的に解決する学習の重要性を認識し、授業に取り入れる工夫などの研究を進める。ボランティア体験を行うことにより、生徒たちの意識が変わるため今後も続けていきたい。	・ボランティア活動を通して様々な学びが有ると思います。今後も継続して欲しい。 ・行事をすすめる上で、コロナの感染対策を行いながらは大変だったと、感謝を述べたい。	

各肯定率は、自己評価規準（よくなった→4 できた→3 あまりできなかった→2 できなかった→1）から「4」「3」の割合を表記した。